

7番 坂本 昇でございます。

未だ収束が見えない新型コロナウイルス感染症ではありますが、いよいよワクチン接種が始まろうとしております。コロナ禍をはじめ少子高齢化や多岐にわたる福祉問題など、日々町政課題に取り組んでいる中居町長そして職員の皆さま、医療や介護従事者の皆さまなど関係各位に敬意と感謝を申し上げながら次の2点について質問いたします。

1点目は、介護予防を住民運動に！ということでありま
す。

介護予防の推進は、健康の町宣言を行い、町民総健康を
目標とする本町にとって、あらゆる面で取り組まなければ
ならない、重要な課題の一つであります。

今般、令和3年度から令和5年度までの第8期介護保険
事業計画が策定されます。

その中で、介護保険料は、介護給付費の増大と介護報酬
改定の影響により、引き上げを余儀なくされている状況に
あります。介護保険制度が始まった平成12年度第1期介護
保険事業計画で示された介護保険料基準額は月額2,900円。

これは岩手県平均の 2,868 円、全国平均の 2,911 円と比較しても、妥当な保険料のスタートでありました。

しかし、本町の第 7 期介護保険料基準額は 6,400 円に対し、県と全国の平均は 5,900 円程度であります。また、介護給付費や要介護・要支援認定者数を比較すると、第 1 期が約 6 億 5000 万円、519 人からスタートしたものが、令和元年度決算では、約 14 億 5000 万円、883 人と、介護給付費では 2 倍以上、要介護・要支援認定者数は 1.7 倍以上と著しく増大しております。

これは、高齢化等の社会的条件の変化や制度改定等に要因があるものの、町全体で、介護予防や行政、関係機関の総合的・横断的な取り組み不足、そして意識改革の認識不足があったのではないかと感じております。

そこで、第 8 期事業計画の策定に当たり、第 7 期計画の実績をどのように分析し、第 8 期計画に反映させたのか。特にも予防事業の効果をどのように捉え、今後執り進めていくのか伺います。

健康推進は、産前産後から人生の終活まで長期にわたって行わなければなりません。健康寿命の延伸が叫ばれてい

る中、保育・幼児教育、家庭教育そして学校・社会教育面においても縦横断的に、介護予防の問題に向き合い、町民の参画、協働など町民運動として取り組んでいくことが、肝要と思います。そのことが、次の第9期事業計画において、介護給付費や要介護・要支援者数の抑制に繋がると確信いたしますので、町長の所見をお伺いします。

また、介護従事者の確保に苦慮しているという情報もあります。行政の多様なネットワークで民間企業も含めた情報収集、支援体制の構築を図るべきと思いますがご見解をお伺いします。

2点目は、龍泉洞町営60周年記念事業、企画の内容についてであります。

日本三大鍾乳洞として全国にその名を馳せ、町営化を図ってから早60年。節目となるこの記念すべき令和3年度に、どのような記念事業を行い、どのようなアイデアで町民そして全国の龍泉洞ファンにお出でいただく考えなのかお伺いします。

また、コロナ禍の厳しい状況の中にあつて龍泉洞では、手づくりの環境整備に努めており、内外からの評価を博しているところでもあります。

一方で、せっかく遠方から訪れた観光客が、大雨などによる影響で閉洞となり、洞内を見学できない場合があります。その際の対策の一つとして、VR (Virtual Reality) を活用した映像を提供できないものかと考えます。

VRは、人工的な現実感や仮想現実とも訳されますが、立体的に再現できる機能を活用し、龍泉洞レストハウスにある大型スクリーンに映し出す方法などがあると思います。過去に地底湖を調査した際の水中映像やドローンを活用した空撮など素材はたくさんあると考えられます。併せて、町の名所や30景、食材や人材、さらにジオパークやトレイルの紹介、大震災や台風災害からの復興状況の報告など、訪れた方にきっと満足していただけるものが準備できるはずです。VRを活用したサービスに取り組む価値があると考えますが、町長のご見解をお伺いします。

以上で本席からの質問を終わります。

7番 坂本 昇 議員の御質問にお答えします。

まず初めに、第8期介護保険事業計画についてであります。第7期計画の実績を分析しますと国内、県内と比較して、介護施設を利用する人数が多いこと、低所得者への補足給付が多いことで介護給付費が多額なこと、さらには70歳代の認定率が高く介護が長期化していることなどが挙げられます。

また、介護予防活動においては、活動に取り組む団体が14団体増え、23団体となり、活動への参加実人数は151人増え、477人となったところではあります。65歳以上の人口と比較しますと約12パーセントに留まっております。

このことから、活動に消極的な人や人との関わりが苦手な人などへ粘り強くアプローチを続けてまいりましたが、一方では参加者が固定化の傾向にあり、特に新規男性参加者が少ない状況にあると認識しているところであります。

第8期計画への反映については、認定者を抑制するために予防活動に注力する必要があることから、これまでと同様に介護予防活動に取り組む団体を増やすとともに、参加ポイント制を新たに導入し健康づくりや介護予防活動へ参加する動機付けにしていきたいと思いますと考えております。

次に、健康推進への取組についてであります。議員御指摘のとおり町民一人ひとりが介護予防の問題に向き合い、町民運動として健康づくりに取り組むことが健康寿命の延伸に繋がると認識しておりますので、町民と行政、関係機関が協働して様々な場面でその人に合った自主的な健康づくりが実践できるよう、横断的な体制整備を進めてまいります。

さらに、いきいき百歳体操等の普及啓発を行い、出前講座等により地域に出向き、実施団体を増やすことにより、町民の社会参加を推進し、その結果、元気で心豊かな生活を送ることが出来るよう努力してまいり

たいと存じます。

次に、介護従事者の確保についてであります。議員御指摘のとおり介護従事者の確保は大きな課題と捉えております。

そこで、町内の介護事業所から介護人材の実態調査を実施したところ、正規・非正規職員の半数以上を50歳以上が占めており、今後、介護する側とされる側のバランスはさらに不安定なものとなることが予測されているところであります。

介護の人材不足は、本町だけの問題ではないと認識しておりますが、県内市町村の状況も調査しながら、今後も介護事業所や関係機関から情報収集を行い、情報の共有をしてまいりたいと考えておりますので御理解をお願い申し上げます。

なお、第8期計画においては介護事業所に一定期間就職することで、返還免除となる就学資金制度の紹介

をするなど、介護の職場体験に併せ、新たな介護人材の確保に努めてまいりたいと考えております。

次に、龍泉洞町営60周年記念事業についてですが、議員御案内のとおり、来月には町の観光が大きな節目を迎えます。これまで観光に携わってきた先輩方、全国のファンの皆様、旅行関係者の皆様方そして町民の皆様に心から感謝を申し上げる次第であります。

記念事業の内容でございますが、本来は関係者が一堂に会して喜びを分かち合い、更なる発展を誓い合う機会とするべきところではありますが、コロナ禍の下、感染拡大防止に配慮しつつ、どのような事業が実施できるのか、現在、関係者で検討しているところがあります。

いずれ、国内外に誇る観光地として更なる進化を遂げ、未来の町の発展に結び付くよう取り組んでまいりたいと考えております。

次に、閉洞時の観光客対策についてであります。現在は、予約の団体客については、龍泉洞の見所でもある地底湖だけでも見学してもらえよう龍泉洞トンネル出口を使い、第三地底湖に御案内する場合がありますが、議員御提言のVRを活用した映像の提供につきましても、今後、専門家からの指導を仰ぐとともに、関係機関などとも連携をしながら調査・研究してまいりたいと存じます。

なお、町には町内の観光地や人と暮らし、商店街などを記録した動画素材がございますので、龍泉洞観光センターの大型モニターなどを活用しながら、訪れた皆様から満足していただけるよう情報発信に努めてまいりますので御理解をお願い申し上げます。

以上で答弁を終わります。